

1. 評価結果概要表

評価確定日 平成21年7月1日

【評価実施概要】

事業所番号	2274201546
法人名	MS5有限会社
事業所名	グループホーム スローライフ大谷
所在地 (電話番号)	静岡市駿河区大谷2526-2 (054-237-5780)

評価機関名	セリオコーポレーション有限会社
所在地	静岡市清水区迎山町4番1号
訪問調査日	平成21年5月19日

【情報提供票より】(平成21年4月20日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成17年4月15日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	19 人	常勤 16人/ 非常勤 3人/ 常勤換算	14.6人

(2) 建物概要

建物形態	単独	新築
建物構造	鉄骨造り	
	2階建ての1階～2階部分	

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	¥119,000	その他の経費(月額)	
敷金	¥73,000		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	無
食材料費	朝食		昼食
	夕食		おやつ
	または1日当たり ¥1,000		

(4) 利用者の概要(平成21年4月14日現在)

利用者人数	17 名	男性	4 名	女性	13 名
要介護1	4 名	要介護2	6 名		
要介護3	3 名	要介護4	1 名		
要介護5	3 名	要支援2	名		
年齢	平均 82.2 歳	最低 71 歳	最高	99 歳	

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	望月クリニック
---------	---------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

静岡市の海岸近くに建てられたこのホームは、名前が示すようにゆっくりした暮らしの中で笑いの絶えない楽しい我が家を理念として掲げている。周辺は目下区画事業の整備中であるが、温暖な気候と海・山があり環境風土ともに恵まれている。ホーム内に入ると、まず“メロ”という犬が迎えてくれ、ホームの住人よろしく振舞う姿は全員のマスコットとなっている。オーナーの介護に寄せる情熱と真摯な取り組みが、職員の和と明るいムードを生み、また、退職する者もいなくなったことから職場内の平静が保たれている。職員の交替が以前激しく、管理者をオーナーである代表者が務め、また計画作成担当者も非常勤職員として最近採用がされている現状から、運営面での課題が少なからずある。利用者との関係はよく、利用者本位のケアの実行が言動の中で感じられるホームである。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の主な改善課題は、ほぼ改善の取り組みが見られる。しかし、地域密着型サービスを意識した取り組みにおいて、行政当局との連携の面や運営推進会議の開催方法等についての改善策が望まれる。また、職員の定着化を期待したい。
①	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	管理者は、自己評価及び外部評価の重要性を認識しており改善の取り組みは見られるが、職員の退職等により一部において十分でない面もある。ホーム内の空気も落ち着きを取り戻しており、改善意欲もあることから今後を期待したい。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	2ヶ月に1回の割りで開催はされているが、メンバーは事業者とリーダー職員及び利用者家族等からなっており、本来運営推進会議の主旨とは違ったものとなっている。地域包括支援センターや行政の職員の参加を呼びかけているが参加までには至っていない。また、自治会・町内会の役員等への働きかけも行うなど運営推進会議の主旨を活かした取り組みが望まれる。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	契約時に苦情や相談に応じる窓口があることを伝えており、運営推進会議の場や家族等が面会に訪れた際には意見・苦情等を聴取している。出された意見等は職員間で話し合いを行い、ホームの運営に活かしている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地域の一員として、地元のお祭り、町内の運動会等のイベントを通じて地域との交流を図っているほか、近くの小学校児童の職場訪問の受け入れや海岸掃除に参加するなどして、幅広く地域とのつながりが盛んになるように努めている。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	笑いの絶えない楽しい我が家を理念とし、日々その実践に向けた取り組みは見られるが、地域密着型サービスの役割を考えた事業所としての理念にはなっていない。	○	地域密着型サービスの役割を理解され、地域や利用者のニーズ、事業所の状況変化によって現状にあった理念に作り変えていくことが望まれる。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念の共有化と実践を図るため、日々のミーティングや毎月開催の会議の場において理念の啓発を図っており、職員の言葉かけ、態度、記録等からも理念に向けた取り組みが見られる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の一員として、地元のお祭り、町内の運動会等のイベントを通じて地域との交流を図っているほか、近くの小学校児童の職場訪問の受け入れや海岸掃除に参加するなどして、幅広く地域とのつながりが盛んになるように努めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者は、自己評価及び外部評価の重要性を認識しており改善の取り組みは見られるが、職員の退職等により一部において十分でない面もある。	○	評価について真摯に受け止め、改善意欲は十分に伝わっており、今後を期待したい。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回の割りで開催はされているが、メンバーは事業者とリーダー職員及び利用者家族等からなっており、本来運営推進会議の主旨とは違ったものとなっている。	○	地域包括センターや行政の職員等にも働きかけはしているようであるが、再度参加の働きかけを期待したい。また、自治会・町内会役員等にも積極的な働きかけが望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	必要に応じて電話等により相談や報告を行なっているが、運営推進会議への参加がないなど十分な連携が図られていない面もある。	○	市町村は、介護保険の保険者として、市民福祉を推進する地方自治の立場にあり、また、事業の推進約として重要な存在であることから、積極的なアプローチを期待したい。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月の請求書発送の際、利用者のホームでの暮らしぶりや健康状態などを一筆箋にしたため報告しているほか、電話連絡あるいは家族等の面会時においても家族への報告は密にするようにしている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	契約時に、苦情や相談に応じる窓口があることを伝えており、運営推進会議の場や家族等が面会に訪れた際には意見・苦情等を聴取している。出された意見等は職員間で話し合い、ホームの運営に活かしている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	今まで離職者が多かったことから、その一因は職員のストレス等によるものとして、休憩・休息時間の付与の徹底と勤務時間管理、気晴らしのための海岸散歩等を実施している。利用者・その家族等に与える影響等を少なくするため職員間によるフォロー体制が敷かれている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内・外部研修の参加できる機会を多く持つようにはしているが、職員の経験度合いに応じた育成のための研修計画が策定されていないなど、職員を育てる取り組みはまだ十分と言えない。しかし、介護技術向上勉強会の内容が充実していることから職員育成の効果が期待できる。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	懇意の同業者とは年2～3回情報交換会を行っているほか、最近、知人が設立した「介護技術向上勉強会」にも毎月参加してサービスの質の向上を目指している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用者本人が安心して落ち着いた生活ができるように体験入居を経験していただいたり、ホームの雰囲気に馴染めるようにレクリエーションを行なうなどして楽しく過ごせる環境づくりに配慮している。また、信頼関係を第一義として本人の負担にならないよう家族と相談しながら進めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者とのコミュニケーションを重点に、声掛け・話し合いを通じてお互いに理解し合える関係を築く努力がされている。日常の暮らしの知恵を利用者から教わったり、また、職員からは新しい情報を伝えたりして、共に過ごし支え合う関係を作り出している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時に、利用者のこれまでの習慣や好み・暮らしぶり・今後の要望などを聞き取っている。入居後は日常生活の中で言葉や表情からその思いを汲み取るように努め、職員間で情報を共有している。買い物や外出希望など本人の意向を尊重し取り組んでいる。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ケアマネージャーが中心となりアセスメントを基に、日々の職員の話しや本人・家族からの話と、介護記録なども活用して個別に具体的な介護計画を作成している。本人の意向や家族の要望も把握し、それが反映されるように計画を策定している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	日々の生活の中で常に利用者の状況変化を把握し、問題点や変化した場合は即検討見直し、本人の状態に即したプランに変更している。安定している利用者の場合でも、本人の希望や家族の意向を確認しながら見直しを行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者の通院は家族にお願いしているが、状況によって職員が付き添いを行なう。本人の希望や家族の要望に応じて外出、外食、外泊の支援、買い物や美容院の送迎等柔軟に対応している。体験入居にも対応している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関の内科医が週2回往診に来ている。入居以前からのかかりつけ医を利用している人もいる。家族を通じ連携して情報を全職員が共有している。本人・家族の状況に応じて通院支援を行なっている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した際の対応について「意思確認書」を作成し、医師と相談しながら本人・家族との話し合いの中で個々に対応していくことを職員間で共通認識としている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は利用者の今までの暮らし方・生き方を尊重しながら、尊厳に配慮し、誇りを傷つけない声掛けや温かみのある接し方をしている。排泄の介助もさりげなく行なっている。書類は事務室にて適切に保管され個人情報には守られているが、訪問者受付簿は一覧記名になっておりプライバシーを損ねる状態が見られる。	○	誰もがみれる訪問者受付簿は、一覧記名でなく一人ひとりの個別記入で訪問者の意見・要望等を書ける様式にするなど、プライバシーの確保が望まれる。
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の利用者の様子で活動を決めている。天候や利用者の意向で変更することもある。本人の「できること」を把握して生活のペースやリズムに合わせ、押し付けにならないように留意している。利用者が自分のペースを保ちながら暮らせるように支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の嗜好や食べたい物を献立に反映させるように配慮している。簡単な下ごしらえや片付け等手伝ってもらっている。職員と一緒に食卓について、介助の必要な方の支援をしながら和やかな雰囲気の中で食事をしている。季節に合ったメニューを提供したり、食事が楽しいひとときとなるように心掛けている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴の日はほぼ1日おきに概ね午前中に行なっている。希望があれば入浴日外でも対応できるようにしている。本人の希望で見守りや入浴介助は一人ひとり行なわれている。限られた時間の中でも、利用者がゆったり気持ちよく入浴できるように取り組んでいる。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者一人ひとりの生活歴や力を活かし洗濯物をたたんだり、畑の草取りを職員と共にしている。将棋を指したり、友達の家を訪ねたり、公民館や老人会に参加したりと、暮らしを楽しめる支援をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者一人ひとりの状態や要望に応じて、近くにある公園や海の見える所までの散歩、買い物は日常的に出かけている。年に数回は車で出掛けて季節の花見や外食、ドライブ等楽しんでいる。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	管理者や職員は日中の利用者の動向を把握しており、玄関前に事務所があって出入の確認ができるため、施錠をしないケアに取り組んでいる。1階2階は自由に行き来している。車椅子の利用者はエレベーターで移動できるようになっている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回消防署の指導を受け、定期的に災害対策の訓練を行なっている。職員は消火器の使用方法を実演し、地域の防災訓練にも利用者と一緒に参加している。更に地域の協力を得られるよう運営推進会議において依頼する予定である。しかし、災害に備えての非常食・水などの備蓄がされていない。	○	災害対策にむけて、声の掛け方やフロアごとの具体的な誘導方法等のマニュアル作りや、備蓄についての整備が望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>献立は利用者の身体状況や好みに合わせて提供している。飲み込み状態の良くない人には刻み食・ミキサー食など、また時間のかかる利用者についても十分時間をかけて、個々に合わせた支援をしている。「個人介護記録」で食事量の記録はあるが、水分量は食事の際等に補い摂取できるようにしているが記録がない。</p>	○	<p>利用者の栄養量や水分摂取量は体力低下時の個別支援の基礎となるので、食事量だけでなく、水分摂取量の記録も望まれる。</p>
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>居間兼食堂はテーブル・テレビが置かれ、テレビの前にソファが置かれ、利用者はゆったりと好きな所で寛いでいる。畳コーナーも自由に使用されている。季節に合った花や利用者の作品が飾られ、文字の大きなカレンダーや時計もあり、適度の採光で親しみやすい家庭的な雰囲気作りを心掛けている。</p>		
30	83	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>利用者は使い慣れた家具や時計を持ち込み、好みの物や思い入れのある物が飾られている。本人や家族の希望に添うようして、個性ある居室作りを工夫している。それぞれの利用者が落ち着いて過ごせる環境が整えられている。</p>		